

野外活動プログラム「火おこし」



対 象 小学校高学年以上 人 数 1班5～9名程度×最大40セット

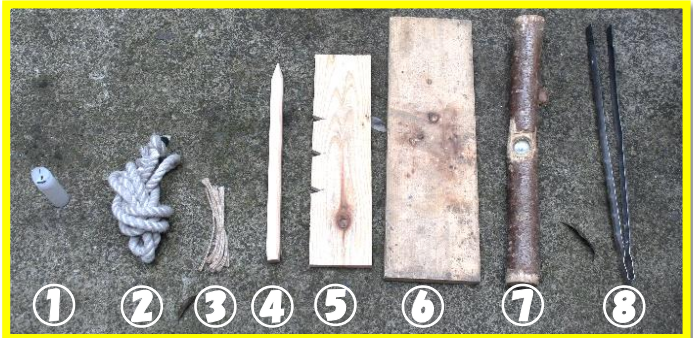
所要時間 30分～1時間程度※年齢による 天 候 雨天可

概 要 私たちの生活に無くてはならない「火」を、「ヒモギリ式」と呼ばれる原始的な火おこし方法で作るプログラムです。ゼロから「火」を作り出す体験は、グループの協力が無くてはならない体験であり、「火」が点いた時の達成感や嬉しさは他の何にも代えられない経験となります。さらに、火おこしでつけた「火」を使い、野外炊事を展開することも可能です。

活動場所 各炊事場・各広場

料 金 1セットあたり215円

用 具 個人・団体での持参品
 軍手 新聞紙 救急用品
 ふれあいの村での準備品（右写真参照）
 火おこしセット（最大貸出数40）
 ①ロウソク ②ロープ ③麻ひも
 ④ヒキリ棒 ⑤ヒキリ板
 ⑥下敷き用の板 ⑦ハンドピース
 ⑧火ばさみ（炊事場に常設）



当日までの準備

プログラム実施に向けて

- プログラム実施の予約 ⇒ 「活動計画書」への記載をお願いします
 - ・活動施設は確保できていますか？
 - ・雨天時も実施をされますか？
- 準備品の申込み
 - ・火おこしセットの申込みはできていますか？
 - ・持参品の用意や周知はできていますか？
 - ※雨天時や湿度の高い日は、火がつきづらいように思われます。
- 引率者間でのプログラム運営方法の確認
 - ・引率者間での役割は決まっていますか？
 - ・班分けは決まっていますか？
- 火おこし体験を終了する時間は決まっていますか？
 - ・活動の終了時間・終了方法について、引率者全員の対応方法が統一されていますか？
 - 例1…火がつかなくても一定時間が経過したら活動を終了する。
 - 例2…全ての班の火がつくまで活動を続行する。
 - ※特に、火おこし体験でつけた「火」を野外炊事の「火」として活用する場合、火おこし体験としての終了時間が決まっていないと、火おこし体験の時間が長びき、野外炊事の出来上がり時間、その後の全てのプログラムに影響する傾向が見られます。
 - ※足柄ふれあいの村ホームページ内にある「火おこし体験」動画もご活用下さい。

野外活動プログラム「火おこし」

進 行		備 考	
<p>①実施準備</p> <p>□個人での持参品・団体での持参品の準備</p> <p>□管理棟事務所での必要物品の受け取り</p> <p>②集合・説明</p> <p>1) 説明</p> <p>2) 物品配布</p> <p>3) 場所の準備</p> <p>③作業開始～完成</p>		<p>※希望があれば、ふれあいの村職員より火おこし体験の説明（15分程度）をさせて頂くこともできます。</p> <p>※炊事場内で活動を行う場合には、調理台などを動かし、作業スペースを十分に確保して体験を開始してください。</p> <p>※「火おこし体験」の動画を足柄ふれあいの村ホームページにて紹介しております。火おこし体験の事前学習などにご活用ください。</p> <p>※火おこし体験の前半は、摩擦により熱を貯めることがカギとなります。手の動きを止めてしまうと、貯めた熱が冷めてしまいますので、ロープを大きく・ゆっくりと動かし続けることを意識して下さい。</p> <p>※早いグループは、概ね20～30分程度で火をつけることができますが、遅いグループとなると60～90分間続けてもつかないことがあります。また、当日の天候や湿度などによっても火のつき具合は変わってきます。</p> <p>野外炊事と併せて実施するような場合には、火おこし体験の終わりの時間も意識しての運営が望ましいと思われます。</p> <p>※火が灯ったロウソクは、足元の邪魔にならないカマド横のU字溝内に置くと良い。</p>	
分	火おこし係		麻ヒモ・新聞紙の準備係
00 5 60	<p>①3人1組になり、火おこし器を動かす準備をします。</p> <p>火おこし器を押さえる人：1名</p> <p>ロープを引く人：2名</p> <p>②ロープを左右に引き、ヒキリ棒を回転させます。</p> <p>▶前半はロープの長さを使って、大きく、ゆっくりと動かす。目安は「焦げ臭いにおい」「白い煙」「ヒキリ板の溝に茶色い木くすが溜まる」までとし、できる限り動きを止めない</p> <p>▶ヒキリ板の溝に木くすが溜まってきたら、ロープの動きを徐々に早くする。</p> <p>▶木くすが黒っぽくなりはじめ、さらにその中に赤い火種（ひだね）ができるまでロープを引き続ける。</p>		<p>①準備</p> <p>麻ヒモ</p> <p>麻ヒモのヨリを戻し、細かな繊維の状態までほぐし、その繊維を鳥の巣状（綿状）のようにまとめます。</p> <p>新聞紙</p> <p>鳥の巣状にまとめた麻ヒモの繊維を包むような受け皿として使います。</p> <p>②準備が終わったら、火おこし係の交代要員として待機しておく。</p>
	<p>③火種ができたら、鳥の巣状にまとめた麻ヒモの繊維の中にゆっくり移し、繊維で包み込む。</p> <p>④包み込んだ火種に空気を送り込む</p> <p>▶息をゆっくり、長く吹きかけ続ける</p> <p>▶火種の入った麻ヒモの繊維を火ばさみでつかみ、ゆっくり、大きく振り回す</p> <p>※どちらの方法も、突然炎が“ポツ”と上がるので気をつける。</p> <p>⑤火がついたら、ロウソクに火を移して終了</p>		
④後片付け			
<p>1) 使った備品を部品ごとに回収</p> <p>2) 管理棟事務所へ返却</p>			

